

## 「最も小さい者」

マタイによる福音書 第25章 40節b

説教 本庄侑子 牧師

「わたしの兄弟であるこれらの最も小さい者のひとりにしたのは、すなわち、わたしにしたのである」(マタイによる福音書 第25章40節b) イエス様は十字架につけられる前、最後の説教をなさいました。その最後、「最後の審判の話」の中で、この言葉をお語りになりました。

「最後の審判の話」。終わりの日、イエス様が私たちを集め、羊か山羊かにお分けになるという話です。羊は御国を受け継ぎ、山羊は永遠の火に入れられます。羊か山羊かを分けたのは、イエス様が空腹のときに食べさせ、かわいていたときに飲ませ、旅人であったときに宿を貸し、裸であったときに着せ、病気のときに見舞い、獄にいたときに訪ねたかどうか。

羊たちは驚いて言います。いつ、そんなことをしたでしょうか。イエス様は答えます。「わたしの兄弟であるこれらの最も小さい者のひとりにしたのは、すなわち、わたしにしたのである。」山羊たちも驚いて言います。いつ、そんなことをしなかったでしょうか。イエス様は答えます。「これらの最も小さい者のひとりにしなかったのは、すなわち、わたしにしなかったのである。」(25章45節)

聞き方によっては恐ろしい話です。生きている時に何をしたかが最後の審判の基準となるのですから。確かに「恐れ」は教育的な効果があります。小さい頃、嘘をついたら閻魔様に舌を切られるよ、と言われて恐れを覚え、嘘はつかない！と心に決めたことがあります。

今日の言葉も、私たちに恐れを与え、善行を促すための言葉として聞こえるかもしれません。しかしそれが、最後の審判で山羊にならないためなのだとしたら、自分のために他人を利用せよ、ということになります。あのイエス様が、最後の最後で、そんな話をするのでしょうか。

この時、イエス様は「わたしの兄弟であるこれらの最も小さい者」を指差されました。それは誰だったのでしょうか。イエス様は別の箇所、ある人々を「小さい者」(10章42節)と呼んでおられます。弟子たちです。弟子たちは皆、人生のある時に、イエス様に名を呼ばれ、愛されていることを知った人々でした。私たちも弟子です。教会に来て、聖書の話や聞こううちに思うようになった。イエス様は私を知っておられる。それも、着飾った私ではなく、誰にも見せられない最も小さい私を知っておられる。これ

までの人生の恥も、痛みも、全部知った上で愛してくださった。このお方こそ私の救い主。そう知ったからイエス様についてきました。

この後、弟子たちは復活したイエス様と再び出会い、聖霊を降され、全世界に出て行くこととなりました。行く先々で、誰かの世話にならざるをえない日々を続けました。敵意に囲まれ、殉教しました。彼らは最後まで「最も小さい者」としてこの言葉を聞き続けたことでしょうか。悔しさで胸が引き裂かれることがあったでしょう。全部やめてしまいたくなることもあったかもしれない。しかし、聖霊は彼らを捉えて離さず、思い起こさせたのです。十字架につけられる直前、イエス様が何を見ておられたかを。

イエス様は、私たちが善行に励んでいる姿ではなく、「最も小さい者」として叫び、うずくまっている姿を見ていてくださった。そして、代わりに叫んでくださった。『この人は私の大切な兄弟なんだ。助けてあげてくれ。』そうして私たちが誰かの助けを受けたなら、自分のことのように共に喜んでくださった。助けを受けなかったら、本気で怒ってくださった。

聖霊はさらに、弟子たちの目を、隣人の傍らで叫ぶイエス様にも向けさせたことでしょうか。この人の傍らにもイエス様がおられる。私に対して敵意を抱かざるをえない、この人の叫び、傷、内に潜む「最も小さい者」をこそ見つめて、『この人も私の大切な兄弟なんだ。助けてあげてほしい』と叫んでおられる。

困っている人や、悲しんでいる人を助ける。確かに素晴らしいことです。しかし、イエス様に出会っていただいた弟子たち、教会が託された愛のわざは、それらをはるかに超えた出来事の中に置かれているのです。孤独、悔しさ、誰をも真実に愛することができない凍てついた心、罪、それら私たちではどうすることもできない「最も小さい者」を見つめ、そこから救うために十字架についてくださったイエス様の叫びを聞いているからです。

今週、私たちが出会う隣人の傍らでもイエス様は叫んでおられます。イエス様は、私たちの小さなわざを通して、その人に出会い、かつて私たちも経験したあの出来事、イエス様にしかできない十字架による救いの出来事に用いてくださるのです。

(記 本庄侑子)